

5 ^{やまとのくにえず} 大和国絵図 ^ぼ 1 鋪 [有形文化財（歴史資料）]

^{つけたり} 附 ^{やまとのくにいせのくにさかいまわえず} 大和国伊勢国境界絵図 1 鋪

[所在地] 奈良市大安寺西一丁目 1000 番地（奈良県立図書情報館）

[所有者] 奈良県

[法 量] 東西 379.0 cm、南北 586.5 cm

[時 代] 江戸時代（元禄 12 年 / 1699）

[概 要]

江戸幕府は、慶長、正保、元禄、天保の 4 度にわたり諸国に^{くにえず}国絵図の提出を命じた。本図は元禄度に作成された大和国絵図である。

幕府から示された作成要領に基づき大和国全体を 1 鋪に描く。郡境を太い墨線で界し、村名は郡別に色分けした小判形に石高を付して書き込む。山や寺社は簡略化して描くが、吉野山の満開の桜や、大峰の峻巖な山岳の描写は絵画的で見ると見るべきものがある。余白には絵図元に任命された郡山藩^{ほんだのとのかみ}本多能登守（忠常）、高取藩^{うえむらうえものすけ}主植村右衛門佐（冢敏）の名と、元禄 12 年の年紀がみえる。内閣文庫には元禄 15 年に幕府に献上した大和国絵図の模本が伝わるが、両図を比較すると模本にある国境の詳細な^{こがき}小書が本図では簡略であり、紀伊国境については記載を欠くことから草稿本であることが確認できる。

附指定の大和国伊勢国境界絵図は国絵図と共に提出が求められた^{くにさかいへりえず}国境縁絵図で、国境付近のみを抽出した地図。詳細な国境小書は内閣文庫の模本と一致しており、元禄 15 年に新国絵図とともに幕府に提出した伊勢国との国境縁絵図の控とみられる。

4 度にわたる^{かんせんくにえず}官撰国絵図の中でも元禄度のものは、国境が確定する意味において国絵図の完成形を示すとされる。大和国の官撰国絵図で現存するのは内閣文庫に伝わる天保度のもの（重文）のみであり、本図は草稿本ながら保存良好な最大の大和国絵図として高い価値を有するものである。

